

2024年度学校運営評価

【方法】

2024年度の各看護領域及び係・委員会の自己点検・自己評価に基づき、学校運営評価(8カテゴリー・60項目)を教職員19名(教員15名、職員4名)で実施した。60項目それぞれについて関連する取り組みを記載後、全教職員(当該年度在職者)で内容を吟味し評価点を付けた。3点に満たない場合はその理由を明記し、次年度の課題を明確にした。

【2024年度 総評】

2024年度の取り組みの主要事項及び成果について述べる。「Ⅰ. 教育理念・教育目的・教育目標」「Ⅱ. 教育課程経営」においては、複数の新たな臨地実習施設と契約し、施設担当者の協力を得て実習が行えたが、指導体制維持困難の理由から契約終了の施設もあった。学校行事については、学年合同の戴帽式、保護者と来賓を招いた式典、学生中心の学校祭の企画が再開できた。「Ⅲ. 教育活動及び評価」では、学生の自主的な技術練習推進のためシミュレーターの利用手続きを整えた。故障していたシミュレーター1台を年度末に更新したため(八重)、今後活用していく。録画講義システムで専門基礎分野16科目を録画し、当該学年全員に配信した。「Ⅳ. 経営・管理過程」では、学生生活の支援として、社会人経験のある学生が「専門実践教育訓練給付金」の受給を開始した。学生寮への保護者の訪室について事前届出制を整備した。看護学生対象の「ハラスメント防止に関する規定」を作成した。コロナ禍により休止していたサークル活動を再開した。「Ⅴ. 入学」の広報として、100周年記念誌のダイジェスト版の制作、学校案内パンフレットの新規制作、Instagramの投稿を行った。学生募集活動では来校型学校説明会を6日間実施し、うち1日は千葉北総病院の協力のもと院内見学会も行った。入試については高校訪問数を増やしているが、出願者数は前年度より減少している。「Ⅵ. 卒業・就業・進学」では、国家試験合格率100%であった。各教員が模擬試験結果等を分析して授業や補講に生かしている。就職に向けては、2年生対象に日本医科大学病院の見学会及び人事部主催の説明会が行われている。「Ⅶ. 地域社会／国際交流」では、千葉北総病院災害実動訓練に学生4名がボランティアとして参加した。国際看護の授業では、JICA、ジャパンハート、在留外国人から講義を受けた。「Ⅷ. 研究」では、「ハラスメント防止」、「合理的配慮」等の複数の研修に教員が参加した。

今後の課題として、1. 日本医科大学系列では実施できない領域の実習施設との契約促進、2. 人口減少・人口偏在社会に必要な看護人材養成に向けた受験生の開拓 3. 学校ホームページとInstagramを活用した広報活動の継続、4. 国家試験結果及び模擬試験データ分析に基づく授業の強化と合格率の維持向上、5. 卒業生の就業状況の把握と職場適応に向けた就職先医療機関との連携強化が確認された。

【学校運営評価 集計結果】

Ⅰ～Ⅷの各カテゴリーについて、評価項目ごとに3段階評価を行い、各カテゴリーの平均値を算出した。

【評価尺度】「カテゴリーの各項目の取り組みは優れている、又は前年度の課題が解決された」
当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

No.	カテゴリー	下位項目数	評価項目数	平均値
I	教育理念・教育目的・教育目標	2	2	2.9
II	教育課程経営	6	12	3.0
III	教育活動・評価	8	8	3.0
IV	経営・管理過程	11	23	3.0
V	入学	3	5	3.0
VI	卒業・就業・進学	4	4	3.0
VII	地域社会／国際交流	2	2	2.9
VIII	研究	2	4	3.0

2024年度 学校運営評価

